

ドーピング防止規程 改正(案)

加筆 _____ 修正 ; _____ 削除 ; _____

ドーピング防止規程 (現行)	アンチ・ドーピング規程 (改正案)	備考
<p>第1条 [世界ドーピング防止規程、日本ドーピング防止規程及び国際サッカー連盟ドーピング禁止規程]</p> <p>1. 公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という）は、<u>世界アンチ・ドーピング機構（以下「WADA」という）が定める世界ドーピング防止規程（以下「WADA規程」という）、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（以下「JADA」という）が定める日本ドーピング防止規程（以下「JADA規程」という）及び国際サッカー連盟（以下「FIFA」という）が定めるドーピング禁止規程（以下「FIFA規程」といい、「WADA規程」、「JADA規程」及び「FIFA規程」を総称して以下「WADA規程等」という）に基づき、ドーピング・コントロールの開始、実施に対する責任を担う。</u></p> <p>2. 「WADA規程等」に基づき、本協会は以下の役割及び責任等を担う。</p> <p>(1) <u>ドーピング防止方針及び規則が、「WADA規程等」に準拠すること。</u></p> <p>(2) JADAと協力すること。</p> <p>(3) FIFAと協力すること。</p> <p>(4) <u>本協会に通常登録していない競技者に対し、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から、要求された検体採取を受け、正確な最新の居場所情報をJADAに対し定期的に提出するよう義務付けること。</u></p> <p>(5) 「WADA規程等」に違反した競技者又は競技者支援要員に対し、資格停止期間中、交付金及び助成金の交付の全部又は一部を停止すること。</p>	<p>第1条 [世界アンチ・ドーピング規程]</p> <p>1. <u>公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という。）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（以下「JADA」という。）が定めるドーピング・コントロールの開始、実施及び実行することについて支援し、世界アンチ・ドーピング規程（以下「世界規程」という。）及び国際基準（以下「国際基準」という。）並びに日本アンチ・ドーピング規程（以下「日本規程」という。）に基づく全ての義務を履行する責任を担う。</u></p> <p>2. 「世界規程」に基づき、本協会は以下の役割及び責任等を担う。</p> <p>(1) <u>本協会のアンチ・ドーピング規範及び規則が、「世界規程」を遵守することを確保し、「世界規程」、「国際基準」及び本規程並びに「日本規程」（第23条を含む。）を遵守すること。</u></p> <p>(2) <u>JADAの自治を尊重し、その運営上の決定及び活動を妨げないこと。</u></p> <p>(3) <u>本協会に加盟する団体（以下「加盟団体」という。）に対し、アンチ・ドーピング規則違反を示唆する又は当該違反に関連するいかなる情報もJADA及び国際競技連盟に報告すること、及び、ドーピング検査を行う権限を有する全てのアンチ・ドーピング機関が行うドーピング捜査に協力することを要求すること。</u></p> <p>(4) JADAに協力すること。</p> <p>(5) FIFAに協力すること。</p> <p>(6) 「加盟団体」に対し、「加盟団体」又はその下部組織に</p>	<p>世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の規程改定にともなう改正</p> <p>文言及び表現の修正</p> <p>文言の修正</p> <p>本協会の役割及び責任等細分化</p> <p>文言及び表現の修正</p> <p>内容の追加</p> <p>内容の追加</p> <p>文言の修正</p> <p>文言の修正</p> <p>本協会の下部組織の</p>

(6) ドーピング防止教育を奨励すること。

より承認され又は組織される競技会又は活動において、コーチ、トレーナー、マネージャー、チームスタッフ、公式役職員、医師又は医療従事者として参加する各サポートスタッフに対して、「世界規程」及び「日本規程」に準拠するアンチ・ドーピング規則及び結果の管理を所轄するアンチ・ドーピング機関に従うことに同意することを、当該参加の要件として要求する規則を定めることを要求すること。

(7) アンチ・ドーピング規則に違反した競技者又はサポートスタッフに対し、資格停止期間中、交付金及び助成金の交付の全部又は一部を停止すること。

(8) 「世界規程」及び「日本規程」に違反した加盟団体又はその下部組織に対し、交付金及び助成金の交付の全部又は一部を停止すること。

(9) サポートスタッフ又はその他の人が各ドーピング事件に関与しているか否かのドーピング捜査を含む自己の管轄内における全てのアンチ・ドーピング規則違反の可能性を積極的に追求すること。

(10) アンチ・ドーピング教育を推進すること（加盟団体に対しJADAと協力してアンチ・ドーピング教育を行うよう求めることを含む。）

(11) 関係する国内機関及び団体並びに他のアンチ・ドーピング機関と協力すること。

(12) 正当な理由によることなく禁止物質又は禁止方法を使用しているサポートスタッフが競技者に対して支援を提供することを防ぐための懲戒規則を設けること。

団体及び個人に対する拘束力を追加

文言修正

文言追加

文言追加

文言修正

文言追加

文言追加

第2条〔ドーピング防止規程の適用〕

1. 本規程は以下の者に対して適用される。

- (1) 本協会
- (2) 競技者
- (3) 日本代表選手団のメンバー
- (4) 競技者支援要員

2. 「WADA規程等」の違反に対しては、制裁措置が適用され

第2条〔アンチ・ドーピング規程の適用〕

1. 本規程は以下に対して適用される。

- (1) 本協会
- (2) 競技者
- (3) サポートスタッフ
- (4) 本協会の権限下にあるその他の者
- (5) 加盟団体（その下部組織を含む。）

文言修正

個人だけでなく、団

る。

第3条〔義務〕

1. 競技者は、以下の義務を負うものとする。
 - (1) 適用される ドーピング防止方針 及び規則（「WADA 規程等」を含む。以下同じ）を理解し、遵守すること。
 - (2) 検体採取に 応ずること。
 - (3) ドーピング防止 と関連して、自己が摂取し、使用するものに責任をもつこと。
 - (4) 医師に、禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという自己の義務を伝え、自己に施される治療が、「WADA 規程等」に従って採択されたドーピング防止の方針 及び規則に違反しないことを確認する責任をもつこと。
2. 本協会に通常登録していない競技者は、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から、要求された 検体採取を受け、正確な最新の居場所情報を JADA に対し 定期的に提出する。
3. 競技者支援要員 は、以下の義務を負うものとする。
 - (1) 自らに又は支援する競技者に適用される ドーピング防止方針 及び規則を理解し、遵守すること。
 - (2) 競技者の検査プログラムに協力すること。
 - (3) 競技者の価値観及び行動に対する自己の影響力を行使し ドーピング防止 の姿勢を育成すること。

2. アンチ・ドーピング規則違反又は本規程のその他の違反 に対しては、制裁措置が適用される。

第3条〔義務〕

1. 競技者は、以下の義務を負うものとする。
 - (1) 適用される 全てのアンチ・ドーピング規範 及び規則、すなわち、「世界規程」、「国際基準」、「日本規程」（第24条1項を含む。）、本規程並びに アンチ・ドーピング機関、国内競技連盟及び国際競技連盟の政策及び規則 を理解し、遵守すること。
 - (2) 検体採取に いつでも応じること。
 - (3) アンチ・ドーピング と関連して、自己が採取し、使用するものに責任をもつこと。
 - (4) 医療従事者に、禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという自己の義務を伝え、自己に施される治療が、自己に適用されるアンチ・ドーピング規範 及び規則に違反しないことを確認する責任をもつこと。
 - (5) JADA 及び競技者が所属する国際競技連盟に対して、この10年以内にアンチ・ドーピング規則違反を行ったとする非署名当事者によりなされた競技者に対する決定を開示すること。
 - (6) アンチ・ドーピング規則違反をドーピング捜査するアンチ・ドーピング機関に協力すること。
2. 本協会に通常登録していない競技者は、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から、「世界規程」に従い実施された 検体採取に応じ、正確な最新の居場所情報を定期的に提出する。
3. 本協会に加入していない競技者で、JADA の検査対象者登録リストに加わる要件を満たしている競技者は、国内競技連盟に加入しなければならず、競技者が所属する国内競技連盟の国際競技大会又は国内競技大会に参加する少なくとも6か月前に、検査を受けるものとする。
4. サポートスタッフ は、以下の義務を負うものとする。

体も対象に追加

文言及び表現の修正

文言追加

文言追加

文言追加

	<p>(1) 自らに又は支援する競技者に適用される<u>アンチ・ドーピング規範及び規則、すなわち「世界規程」、「国際基準」、「日本規程（第24条2項を含む。）」、本規程並びに国内アンチ・ドーピング機関、国内競技連盟及び国際競技連盟の規範及び規則</u>を理解し、遵守すること。</p> <p>(2) 競技者の検査プログラムに協力すること。</p> <p>(3) 競技者の価値観及び行動に対する自己の影響力を行使し<u>アンチ・ドーピングの姿勢</u>を育成すること。</p> <p>(4) <u>JADA及びサポートスタッフが所属する国際競技連盟</u>に対して、この10年以内にアンチ・ドーピング規則違反を行ったとする非署名当事者によりなされたサポートスタッフに対する決定を開示すること。</p> <p>(5) <u>アンチ・ドーピング規程違反をドーピング捜査するアンチ・ドーピング機関に協力すること。</u></p> <p>(6) <u>正当な理由なくして、いかなる禁止物質又は禁止方法も使用しないこと。</u></p> <p>5. <u>本協会は、以下の義務を負うものとする。</u></p> <p>(1) <u>「世界規程」、「国際基準」及び本規程並びに「日本規程（第23条を含む。）を遵守すること。</u></p> <p>(2) <u>JADAが「世界規程」及び「日本規程」に基づく義務を遂行することに協力し、かつ、これを援助すること。</u></p> <p>(3) <u>アンチ・ドーピング規則違反を示唆する又は当該違反に関連するいかなる情報もJADAに報告すること、及びドーピング捜査を行う権限を有するアンチ・ドーピング機関が行うドーピング捜査に協力すること。</u></p> <p>(4) <u>「世界規程」及び「日本規程」に準拠するアンチ・ドーピング規範を採択し、実施すること。</u></p> <p>(5) <u>その国際競技連盟が日常的なアンチ・ドーピングプログラムを実施することに協力し、かつ、これを援助すること。</u></p> <p>(6) <u>全ての競技者、及び国内競技連盟又はその加盟機関の1つによって承認され又は運営される競技会又は活動において、コーチ、トレーナー、マネージャー、チームスタッフ、公式役職員、医師又は医療従事者として参加する各サポートスタッフに対し、「世界規程」に適合するアンチ・</u></p>	<p>文言修正及び文言追加</p> <p>文言追加</p> <p>文言追加</p> <p>文言追加</p> <p>文言追加</p>
--	--	---

ドーピング規則及び結果の管理を所轄するアンチ・ドーピング機関に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要求すること。

- (7) 国内競技連盟の権限の範囲内で、正当な理由によることなく禁止物質又は禁止方法を使用しているサポートスタッフが競技者に対して支援を提供することを防止すること。
- (8) 加盟条件として、国内競技連盟のメンバー又は国内競技連盟により承認されたクラブの政策、規則及びプログラムが「世界規程」に準拠することを義務付けること。
- (9) 「世界規程」及び「日本規程」の違反を防止するために適切な措置を講じること。
- (10) 聴聞を要求することなく、国際競技連盟、JADA又はその他の署名当事者によるアンチ・ドーピング規則違反の認定を承認し、かつ尊重すること。ただし、その認定が「世界規程」に準拠し、関連団体の権限に基づく場合に限る。
- (11) 通常登録していない競技者に対し、日本代表選手団の一員としてオリンピック競技大会に参加するための条件として、オリンピック競技大会の開催日の1年前から要求された場合には、検体採取に応じ、正確な最新の居場所情報を定期的に提出するよう義務付けること。
- (12) 正式加入していない人で、JADAの検査対象者登録リストに加わる要件を満たしている人に対し、国際競技連盟に加入すること、及び国際競技大会又は国内競技大会に参加する少なくとも6か月前には検査を受けることを要求すること。
- (13) JADA以外のアンチ・ドーピング機関により、本協会の競技者、サポートスタッフに対するアンチ・ドーピング規則違反の認定及びこれに対する制裁措置が行われた場合、JADAに速やかに通知すること。
- (14) JADAと協力して、アンチ・ドーピング教育を推進すること。

文言修正

<p>第4条〔<u>検査</u>〕</p> <p><u>本協会は、「WADA規程等」に従い、ドーピング防止機関（JADAを含む。以下同じ）が行う検査の分析結果を承認する。</u></p> <p>第5条〔本規程違反〕</p> <p>1. <u>「WADA規程等」の違反を犯すことは、本規程に違反する。</u></p> <p>2. <u>「WADA規程等」の違反を犯したか否かを判断するために、「WADA規程」及び「JADA規程」の各第1条、第2条、第3条、第4条、第5条、第6条及び第17条が適用される。</u></p> <p>第6条〔<u>ドーピング防止規則違反の承認</u>〕</p> <p><u>本協会は、全てのドーピング防止機関による、ある者が「WADA規程等」の違反を犯したとの決定を承認し、かつ尊重する。ただし、その認定が「WADA規程等」に準拠し、関連団体の権限に基づく場合に限る。</u></p> <p>第7条〔本協会が課す制裁措置〕</p> <p>1. <u>「WADA規程等」の違反を犯したと認定された者は、制裁措置の期間、日本代表選手団又はその選考の資格、本協会からの交付金、助成金及び補助金の交付の全部又は一部を受け資格、並びに、本協会で役職に就く資格を失う。</u></p> <p>2. <u>制裁措置の期間は、「WADA規程」及び「JADA規程」の各第10条及び第11条並びに「FIFA規程」第47条から第50条まで及び第54条に従って決定される。</u></p> <p>3. <u>本協会は、違反が1回目か2回目かを判断するにあたり、いかなるドーピング防止機関によって課された以前の制裁措置をも承認する。</u></p> <p>第8条〔<u>懲戒措置手続</u>〕</p>	<p>第4条〔<u>相互承認</u>〕</p> <p>1. <u>本協会は、「世界規程」に整合し、かつ署名当事者の権限内でなされる検査、聴聞会の結果、又は当該署名当事者によるその他の最終的な決定を承認する。</u></p> <p>2. <u>本協会は、「世界規程」を受諾していないその他の機関が行った前項に掲げられる決定等についても、当該機関の規則が「世界規程」に適合している場合には、これを承認する。</u></p> <p>第5条〔本規程違反〕</p> <p>1. <u>アンチ・ドーピング規則違反を犯すことは、本規程に違反する。</u></p> <p>2. <u>競技者、サポートスタッフ、その他の人、又は加盟団体が本規程に基づく本協会に対する義務に違反することは、本規程に違反する。</u></p> <p>第6条 《削除》</p> <p>第7条〔本協会が課す制裁措置〕</p> <p>1. <u>アンチ・ドーピング規則違反を犯したと認定された者は、日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に従いなされる本協会理事会の決定により、「世界規程」及び「日本規程」違反の重さに従って、日本代表選手団又はその選考の資格、本協会からの交付金、助成金及び補助金の交付の全部又は一部を受け資格、並びに、本協会で役職に就く資格を失う。</u></p> <p>2. <u>制裁措置の期間は、「世界規程」及び「日本規程」の第10条及び第11条に従って決定される。</u></p> <p>3. <u>本協会は、違反が1回目か2回目か3回目かを判断するにあたり、いかなるアンチ・ドーピング機関によって課された以前の制裁措置をも承認する。</u></p> <p>第8条〔<u>規律手続</u>〕</p>	<p>内容及び表現修正</p> <p>文言追加</p> <p>文言追加</p> <p>文言追加</p>
--	---	---

「WADA 規程等」の違反が問われる全ての事件は、「WADA 規程等」に準拠して判断され、「WADA 規程等」に従って、認定がなされ、不服申立がなされるものとする。

第9条〔通知〕

本規程に基づいて制裁措置が課せられた場合には、本協会は課せられた制裁措置の詳細を下記宛に送付する。

- (1) 公益財団法人日本オリンピック委員会
- (2) 「WADA 規程」第14.1項及び「JADA 規程」第14.3項に基づき、通知を受ける権利を有する者
- (3) 当該者の属するFIFA
- (4) JADA
- (5) 本協会が通知を必要とするその他の者

第10条〔不服申立て〕

不服申立てについては、「JADA 規程」第13条の規定に従うものとする。

第11条〔ドーピング防止規則違反の審査〕

「WADA 規程等」の違反を犯したとして記録された者が後日、「WADA 規程等」の違反を犯していないことが判明した場合、又はその他の誤りがスポーツ仲裁裁判所、一般財団法人日本スポーツ仲裁機構又はドーピング防止機関により明らかになった場合、本協会は「WADA 規程等」の違反及びその「WADA 規程等」の違反の結果として課せられた制裁措置を取り消すものとし、本規程第9条により制裁措置が課された旨を通知された全ての者に対し、そのことを報告するものとする。

第12条〔解釈〕

本規程は、「WADA 規程等」に従い解釈されるものとする。

1. アンチ・ドーピング規則違反が問われる全ての事件は、「世界規程」及び「日本規程」に従って判断され、「世界規程」及び「日本規程」の条項に従って認定され、不服申立がなされるものとする。

2. 「世界規程」第8条及び「日本規程」第8条に従って規律手続きは遂行されるものとする。

第9条〔通知〕

本規程に基づいて制裁措置が課せられた場合には、本協会は課せられた制裁措置の詳細を下記宛に送付する。

- (1) 関係する国際競技連盟
- (2) 「世界規程」第14条1項及び「日本規程」第14条3項に基づき、通知を受ける権利を有する者
- (3) 関係する加盟団体
- (4) 本協会が通知を必要とするその他の者又は組織

第10条〔不服申立て〕

不服申立てについては、「日本規程」第13条の規定に従うものとする。

第11条〔アンチ・ドーピング規則違反の審査〕

アンチ・ドーピング規則違反を犯したとして記録された者が後日、当該アンチ・ドーピング規則違反を犯していないことが判明した場合、又はその他の誤りがスポーツ仲裁裁判所、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構又はアンチ・ドーピング機関により明らかになった場合、本協会はアンチ・ドーピング規則違反及びそのアンチ・ドーピング規則違反の結果として課せられた制裁措置を取り消すものとし、本規程第9条により制裁措置が課された旨通知された全ての者に対し、そのことを報告するものとする。

第12条〔解釈〕

本規程において使用された語は、「世界規程」及び「日本規程」

文言追加

<p>第13条〔改正〕 本規程の改正は、理事会の議決を経て、これを行う。</p> <p>第14条〔施行〕 本規程は、2012年4月1日から施行する。</p> <p>〔改正〕 2012年 4月12日 2012年 5月10日（2012年 6月 1日施行） 2012年 7月12日 2013年12月19日（2014年 4月 1日施行） 2014年 3月13日（2014年 4月 1日施行） 2014年 9月11日 2014年10月 9日（2015年 3月29日施行） 2014年11月13日 2014年12月21日（2015年 3月29日施行） 2015年 3月29日（2015年 4月 1日施行）</p>	<p><u>並びに「国際基準」に従い解釈されるものとする。「世界規程」及び「日本規程」並びに「国際基準」は、本規程の一部とみなされるものとし、矛盾が生じた場合は、「世界規程」及び「日本規程」並びに「国際基準」が自動的に適用され、本規程に優先するものとする。</u></p> <p>第13条〔改正〕 本規程の改正は、理事会の議決を経て、これを行う。</p> <p>第14条〔施行〕 本規程は、2012年4月1日から施行する。</p> <p>〔改正〕 2012年 4月12日 2012年 5月10日（2012年 6月 1日施行） 2012年 7月12日 2013年12月19日（2014年 4月 1日施行） 2014年 3月13日（2014年 4月 1日施行） 2014年 9月11日 2014年10月 9日（2015年 3月29日施行） 2014年11月13日 2014年12月21日（2015年 3月29日施行） 2015年 3月29日（2015年 4月 1日施行） <u>2016年 5月19日</u></p>	<p>文言追加</p>
--	--	-------------